

放置竹林の問題解決・竹の新たな活用へ



放置竹林の防除手法の開発

どうすれば効果的に竹林を防除できる？



野外調査

無性繁殖 (タケノコ・地下茎)



地下茎はどのような条件を好んで伸長するのか？

植栽試験

周期性のある開花
(120年、67年)



有性繁殖 (開花)



どうやって開花年が来たのが分かるのか？



遺伝子発現解析

タケ類の生態的特徴に関する研究

長周期で一斉開花するタケ類における開花メカニズムの解明

竹はタケノコを食したり、かご・ざる等の材料に利用される有用植物ですが、近年は利用が減り、放置竹林が問題となっています。

一方、タケ類は67年や120年といった周期で一斉開花・枯死するという特異な生活史を持ちます。開花のメカニズムを遺伝子発現解析から明らかにする研究を行っています。この研究は、タケ類の開花を自在にコントロールできるような新しい増殖制御技術の開発に道を開くことを目指しています。また、タケ類の生態的特徴である地下茎の挙動などを調べることで、竹林の拡大抑制につなげたいと考えています。